

令和3年度 森林整備事業 再評価調書

事業名	林道開設事業 (森林基幹道)	路線名	おおがわらあさひまるせん 大川原旭丸線																	
事業主体	徳島県	関係市町村	上勝町・神山町・佐那河内村																	
事業概要	<p>(事業目的)</p> <p>本路線は、名東郡佐那河内村上字大川原の村道元山槻地線を起点とし、佐那河内村、神山町、上勝町の境界となる稜線沿いを通過して、上勝町大字生実字殿川内の町道剣山線に至る森林基幹道であり、周辺の町道、林道、作業道との複合路網を形成し、当該地域の森林資源の合理的な森林経営に資するほか、森林整備の推進による森林の持つ公益的機能の維持増進を図るとともに、災害時には迂回路としての機能の発揮を目的としている。</p>																			
	<p>(事業内容)</p> <table border="0"> <tr> <td>利用区域面積</td> <td>992ha</td> <td>[人工林面積：670ha (68%)]</td> </tr> <tr> <td>受益戸数(森林所有者数)</td> <td>207戸</td> <td></td> </tr> <tr> <td>幅員</td> <td>4.0m</td> <td></td> </tr> <tr> <td>計画延長</td> <td>16,460m</td> <td>(うち令和3年度末の供用予定延長 15,904m)</td> </tr> <tr> <td>総事業費</td> <td>3,278,000千円</td> <td>(うち令和3年度末の実施予定事業費 2,889,204千円)</td> </tr> <tr> <td>事業予定期間</td> <td colspan="2">平成3年度～令和10年度</td> </tr> </table>			利用区域面積	992ha	[人工林面積：670ha (68%)]	受益戸数(森林所有者数)	207戸		幅員	4.0m		計画延長	16,460m	(うち令和3年度末の供用予定延長 15,904m)	総事業費	3,278,000千円	(うち令和3年度末の実施予定事業費 2,889,204千円)	事業予定期間	平成3年度～令和10年度
利用区域面積	992ha	[人工林面積：670ha (68%)]																		
受益戸数(森林所有者数)	207戸																			
幅員	4.0m																			
計画延長	16,460m	(うち令和3年度末の供用予定延長 15,904m)																		
総事業費	3,278,000千円	(うち令和3年度末の実施予定事業費 2,889,204千円)																		
事業予定期間	平成3年度～令和10年度																			
事業評価	<p>(事業の進捗状況)</p> <p>平成4年度より工事着工し、令和3年度末までに15,904mの開設され(予定も含み)、進捗率は97%となっており、残区間の早期完成を目指している。</p>																			
	<p>(関連事業の整備状況)</p> <p>当該路線は、起点側から村道元山槻地線、林道梅ノ木線、町道雄中面線、町道野間殿川内線等に接続したことで、神山町から上勝町にかけての広大な森林内の路網のネットワーク化が図られている。また、整備済みの供用開始区間においては間伐や皆伐が進み、平成17年度から令和2年度までに、175.0haの森林整備が実施されている。</p>																			
事業評価	<p>(社会経済情勢の変化)</p> <p>本県の充実した木材資源を活用するため、川上から川下に至る一貫した林業プロジェクトを展開しているが、この度の新型コロナウイルス感染症の影響で顕在化した建築材の外材依存リスクへの対応において、いかに木材を安定的に生産・供給できるかが課題となっていることから、高性能林業機械の導入と林内路網の核となる林道の整備は特に重要となっている。</p> <p>また、当該路線の人工林面積のうち56%は31年～50年生と、間伐が必要な森林も多く存在しており、森林吸収源対策や山地災害を防止する上でも区域内の森林整備を進める必要があり、林道の早期整備が望まれている。</p> <p>さらには、当該地域で整備が進んでいる風力発電施設の機材等の輸送ルートとして利用されているほか、災害時の迂回路としての役割も担うなど、今後も様々な面で林道の利用用途が広がることが期待されている。</p>																			
	<p>(計画上重要な部分の変更の必要性の有無)</p> <p>なし</p>																			
事業評価	<p>(事業効果の発現状況)</p> <p>供用を開始した区間において令和2年度までに間伐をはじめとして延べ約1,120haの森林施業の実施や、間伐材の搬出が増加した。</p> <p>今後はスマート林業プロジェクトを進める中、間伐90ha、材積では7,208m³の搬出を計画するとともに、供用区間の増加に伴い、森林へのアクセス改善や施業の効率化・低コスト化が図られるほか中間土場の活用が可能となるなど、地域一帯の森林施業が加速する見込である。</p>																			
	<p>総事業総便益比 = 総便益 / 総事業 = 1.67</p>																			
事業評価	<p>(受益者・関係機関の意向)</p> <ul style="list-style-type: none"> 関係町村をはじめ地元より事業の早期完成を強く望まれており、期成同盟会の活動も活発である。 また、緊急時の避難路及び迂回路、大川原高原からスーパー林道にアクセスできる観光道としての機能も持ち合わせており全線開通が大いに期待されている。 																			
	<p>(事業の実施方針)</p> <p>継続して事業を実施する。</p>																			